学習指導計画

教科(科目)	古典Ａ	授業者	池山朋花
日時	平成３０年　１２月	対象・場所	３年４組・教室
単元 本時の位置	『毎月抄』「定家に挑戦」 全９時間		
概 要	『毎月抄』において藤原定家が述べている本歌取りの手法に従い、本歌取りの歌を班で作歌して歌合わせを行うことを通して、和歌を苦手とする多くの生徒が和歌に親しませると同時に、古典に関する知識や情報を総合的に活用させる機会とする。		
過 程	〈前時まで〉 授業ですでに『毎月抄』の本文を読解し、定期考査まで終えている。 〈１時間目〉 ○活動の目的と内容を知る ○本歌取りの例をもとに、本歌取りの効果について学ぶ １　「ワークシート１」を用いて、活動の目的と内容を確認し、活動の見通しを持つ。 ２　ペアで、本歌と本歌取りの例(１)(２)について、解釈とその効果を考える。 ３　本歌取りの効果や技法の生まれた背景などについてについて気づいたことをまとめる。 〈２時間目〉 ○前時の全体でのまとめ ○本歌取りの他の例をもとに鑑賞文を書く １　「ワークシート１」の生徒の記述をまとめたものを用いて、本歌取りの技法について全体で確認する。 ２　鑑賞文の書き方を知る。 鑑賞文の内容は以下のように統一することとする。 ①本歌と本歌取りして作られた歌の解釈をそれぞれ書く。 ②それぞれの歌の中の言葉を引用しながら、想像したこと（情景や心情）を書く。 ③本歌取りして作られた歌は、本歌取りをすることでどのような効果があったか、などを書く。 ３　「ワークシート２」を用いて、本歌取りの例(３)について、気づいたことを各自でまとめ、ペアで意見交換する。 ４　各自で鑑賞文を書く。 〈３時間目〉 ○前時の全体でのまとめ ○歌合わせにおいて本歌とする歌の解釈を全体で共有する １　「ワークシート２」の生徒の記述をまとめたものを用いて、本歌取りの技法について全体で確認する。 ２　歌合わせで本歌とする【Ａ】～【Ｅ】の歌について、①解釈、②歌の中の言葉を引用しながら想像したこと（情景や心情)、をそれぞれ各自で「ワークシート３」に書き、ペアで意見交換する。 ３　全体で歌の解釈や情景、心情を確認する。 〈４～６時間目〉 ○班ごとに歌合わせの準備をする １　４人×１０班作り、担当する歌、左方／右方をくじ引きで決める。 ２　評価規準（ルーブリック）を確認する。		

	３　担当する歌について、「ワークシート４」を作成する。 ①「詮とおぼゆる詞」二つを決め、選んだ理由をまとめる ②主題を変える ③定家の述べる手法に従って本歌取りの歌を作る ④解釈をまとめる ⑤歌の中の言葉を引用しながら作歌において想像したこと（情景や心情）をまとめる ⑥情景や心情を表現するためにどのような手法を使ったか、工夫点をまとめる（語句のこだわり、修辞技法など） ４　別紙に大きく自班の本歌取りの歌を書く。 ５　発表方法を確認する。 〈７～８時間目〉 ○歌合わせ勝負（発表と相互評価） １　発表の手順やルーブリックの評価方法を全体で再確認する。 ２『古今和歌集』【Ａ】の歌から、左方→右方の順に発表する。 ①発表班が本歌取りした歌を発表する。 ②発表された歌を他班が解釈や鑑賞し、「ワークシート５」にまとめ、数班発表する。 ③発表班が自班の作った歌の解釈や鑑賞、工夫点をアピールする。 ④ルーブリックで相互(自己)評価する。 ⑤アピールやルーブリック評価も踏まえて左右の歌の勝敗を判定し、判定の理由をまとめる 〈９時間目〉 ○活動の振り返りとまとめ １　各班の「ワークシート５」をまとめたものを配布し、教員からコメントするなどして、本活動における学びを全体で共有する。 ２　「振り返りシート」に記入し、活動を振り返って学びの深まりを認識する。

古典Ａ　毎月抄　「定家に挑戦」　（　）組（　）番（　　）

藤原定家の述べる手法に従って本歌取りを作歌し、歌合わせを行おう　～和歌に親しむ～

〈活動の進め方〉

① 本歌取りの例をもとに、本歌取りの効果について学ぶ
② 本歌取りの他の例をもとに鑑賞文を書く
③ 本歌とする歌の解釈を全体で共有
④ 班ごとに歌合わせの準備
⑤ 歌合わせ勝負（発表と相互評価）
⑥ 活動の振り返りとまとめ

※今の活動が次の活動にどう活きるかを意識して各活動に取り組もう！

活動① 本歌取りの例をもとに、本歌取りの効果について学ぼう

◎本歌取りの例(1)

【本歌】

あしひきの　山鳥の尾の　しだり尾の　ながながし夜を　ひとりかも寝む

（拾遺和歌集 恋三　柿本人麻呂）

解釈

【本歌取りして作られた歌】

ひとり寝る　山鳥の尾の　しだり尾に　霜おきまよふ　床の月影

（新古今和歌集 巻五 秋歌下　藤原定家）

解釈

例(1)における本歌取りの効果など、気づいたことを箇条書きでまとめよう

◎本歌取りの例(2)

【本歌】

きみをゝきて　あだし心を　わが持たば　末の松山　浪も越えなん

（古今和歌集 巻二十 東歌　よみ人知らず）

解釈

【本歌取りして作られた歌】

契りきな　かたみに袖をしぼりつつ　末の松山　浪越さじとは

（後拾遺和歌集 恋四　清原元輔）

解釈

例(2)における本歌取りの効果など、気づいたことを箇条書きでまとめよう

◎この活動を踏まえて、本歌取りについて箇条書きでまとめよう

（本歌取りの効果、なぜ本歌取りの技法が生まれた？　など）

古典Ａ　毎月抄「定家に挑戦」

活動①　本歌取りの例をもとに、本歌取りの効果について学ぼう

◎この活動を踏まえて、本歌取りについて箇条書きでまとめよう

（本歌取りの効果、なぜ本歌取りの技法が生まれた？　など）

クラスメイトの意見（抜粋）

〈本歌取りの効果に関する意見〉

・当時誰もが知っていた和歌の一部を用いることで、その和歌の本意とその本歌取りをして表現した新しい本意の２首分の本意を１首で表現することができる。

・本歌をもとにすることで、まったく違う意味や立場の歌になって、歌の世界観が広がる。

・限られた音数の中でより多くの情報を伝えられる。

・限られた言葉で先人の和歌を使えばより深みを持たせることができる。

・同じ意味で同じ語句を使ってしまうとただのパクリになってしまうが、この本歌取りの技法を使うことでその語句の多様性が広がり、新しい方面での良さが生まれる。

・本歌の情景を取り入れることで、さらに自分の歌を深めることができる。

・上手い人の真似をしたい。

・おもしろい発想だと評価されそう。

〈本歌取りに必要なことに関する意見〉

・本歌取りすることで、本歌の意味を理解していることを示す。

・自分の和歌に対する知識を見せることができる。

・本歌取りできる人は本歌をよく理解している人だから、教養深いということになるし、意味や本歌や趣向がすぐに分かる人も、教養深いことになる。

・まず本歌を正確に解釈しないとできないから、本歌取りによって作者の意図を理解することができて、かつそれを用いて自分の歌として詠むことができるところにおもしろさがある。

・人の歌の言葉を取って歌を詠み、取った歌よりも優れた歌にするのは難しいが、その難しいと思われることをやって優れた歌にすることで、自分の歌人としての価値を高める。

〈その他にあった意見〉

・本歌取りをすることによって、本歌の解釈を変換してまったく違う解釈にするという言葉遊びのおもしろさを表現している。→模倣やパロディ→定家が手法を定めた

・簡単に趣がある歌が詠める。→？

古典Ａ　毎月抄「定家に挑戦」　（　）組（　）番（　　）

活動②　本歌取りの他の例をもとに鑑賞文を書く

◎本歌取りの例(3)

【本歌】

心あらむ　人に見せばや　津の国の　難波わたりの　春の景色を

（後拾遺和歌集　巻一　春歌上　能因法師）

【本歌取りして作られた歌】

津の国の　難波の春は　夢なれや　蘆の枯葉に　風わたるなり

（新古今和歌集　巻六　冬　西行）

気づいたことをメモしよう

☆　各自で鑑賞文を書こう

古典A　毎月抄　「定家に挑戦」

活動② 本歌取りの他の例をもとに鑑賞文を書く

【本歌】：A

心あらむ　人に見せばや　津の国の　難波わたりの　春の景色を

【本歌取りして作られた歌】：B

津の国の　難波の春は　夢なれや　蘆の枯葉に　風わたるなり

クラスメイトの意見（抜粋）

①本歌と本歌取りして作られた歌の解釈をそれぞれ書く。

A：趣を理解している人に見せたいものだ、津の国の難波一面の春の景色を

・人に見てもらいたくなるほど素晴らしい春の景色

・一人で美しい景色を見るのはもったいなくて、他者と共有したい

・難波が都として栄えていた頃の情景

・春の景色で人が多いことをより強調し、難波の賑やかで活気に満ちた様子

・難波の都が栄えている様子を春の景色の美しさとして喩える

B：津の国の難波の春は夢だったのか、蘆の枯葉に風が吹きわたる音がする

・春の景色が夢だったような殺風景な冬の景色

・蘆が枯れ始めて冬が近づいており、春の美しい景色を見たい

・にぎわいや活気を失い、風が吹き抜けてしまうほど人が減ってしまい、人が多かった春が夢のようである

・都が栄えていたのは一時の出来事で今はもう衰退してしまったことを冬の景色に喩える

②それぞれの歌の中の言葉を引用しながら、想像したこと（情景や心情）を書く。

「心あるる」

・わざわざ「情趣を理解できる人に」と詠むのは、作者の歌人としての誇りが感じられる

「春の景色を」

・「春の景色を」で止めることで、余韻効果を狙っている

・倒置が起きている

「わたり」

・Aは「その辺り一面」という場所を表す意味で、Bは「風が吹く」という意味や、「季節が移り変わった」という意味

「夢なれや」

・ネガティブさを感じる

・目の当たりにしている冬の情景の荒廃した様子を嘆いている

・より春の景色の素晴らしさを強調する

・冬が近づいており、春の美しい景色を見たい

・AとBは津の国難波の栄枯盛衰を詠んでおり、特にこの部分が衰退を強くイメージさせる

「蘆」

・難波は、春は蘆の名所

・最も重要な語句を「津の国」と「難波」にしているので、そのものの地名だけでなく、難波の有名な蘆も使うことができる

「枯葉」

・以前のにぎやかさがなくなった

・人のいないさびれてしまった物寂しい雰囲気が伝わる

区切れ

・Aは自己の願望の終助詞「ばや」、Bは詠嘆か呼びかけの終助詞「や」で区切れていて、作者の感情を強く表されている

③本歌取りして作られた歌は、本歌取りをすることでどのような効果があったか、などを書く。

・同じ場所でも、時期が違えば情景は夢だと感じるほど移り変わってしまい、時の変化を強調している

・BはAのイメージ（春＝ピンクなど）を打ち消して対称的なイメージ（灰色など）にしているところが、コントラストを感じられる

・BはAの「津の国の難波の春」を昔の栄えていた時代そのものを指す表現として本歌取りし、荒れ果て昔の面影もない現代の、栄えていた昔は嘘だったのかと疑いたくなるような、荒れ果てた寒々しい今の摂津を表現している

・人に見せたいとまで思わせた難波の都が夢のようで、今ではすっかり衰退してしまったと読むこともできるし、春の美しい景色を恋しく思う冬の歌とも取れる

古典Ａ　毎月抄　「定家に挑戦」　（　）組（　）番（　　）

活動③　本歌とする歌の解釈を全体で共有

活動④では、いよいよ本歌取りの歌を作ります。そして**活動⑤**ではいよいよ歌合わせ勝負！各班の本歌取りの歌の発表と相互解釈→評価を行います。まずは、そこで本歌とする五首の解釈を全体で共有しておきましょう。

☆【Ａ】～【Ｅ】の歌について、①解釈、②歌の中の言葉を引用しながら想像したこと（情景や心情）、をそれぞれ書きましょう。

【Ａ】

亭子院の歌合の歌

桜花　散りぬる風の　なごりには　水なき空に　波ぞ立ちける

（古今和歌集　巻二　春歌下　紀貫之）

〈注〉＊紀貫之：（八七一？～九四六？）『古今和歌集』の撰者の一人で、『土佐日記』の作者。
＊亭子院の歌合：延喜十三年（九一三）三月十三日、宇多上皇がその御所、亭子院で催した歌合。

①

②

【Ｂ】

題知らず

五月待つ　花橘の香をかげば　昔の人の　袖の香ぞする

（古今和歌集　巻三　夏歌　よみ人知らず）

〈注〉＊五月待つ：　五月を待って咲く。　＊花橘：橘の花。初夏に咲き、白色で香りが高い。
＊袖の香：袖にたきしめた香の香り。

①

②

【Ｃ】

秋立つ日詠める

秋来ぬと　目にはさやかに　見えねども　風の音にぞ　おどろかれぬる

（古今和歌集　巻四　秋歌上　藤原敏行朝臣）

〈注〉＊藤原敏行朝臣：（？～九〇一？）宇多朝（八八七～八九七）の頃の歌人。

①

②

【Ｄ】

雪の降りけるを見て詠める

雪降れば　木毎に花ぞ咲きにける　いづれを梅と分きて折らまし

（古今和歌集　巻六　冬歌　紀友則）

〈注〉＊紀友則：（？～九〇五？）『古今和歌集』の撰者の一人。貫之の従兄弟。

①

②

【Ｅ】

題知らず

思ひつつ　寝ればや人の　見えつらむ　夢と知りせば　覚めざらましを

（古今和歌集　巻十二　恋歌二　小野小町）

〈注〉＊小野小町：生没年未詳。仁明・文徳朝（八三三～八五八）の頃の歌人。六歌仙の一人。

①

②

古典A　毎月抄「定家に挑戦」　　（　）組（　）番（　　）

活動④ 班ごとに歌合せの準備をしよう

【　　】班　班員

班長	副班長		

担当する本歌（　　）の（ 左方 ／ 右方 ）

手順1 「詠とおぼゆる詞」二つを決め、選んだ理由をまとめよう

「　　」と「　　」

選んだ理由

手順2 主題を変えよう　　の歌 →　　の歌

手順3 定家の述べる手法に従って本歌取りの歌を作ろう

手順4 解釈をまとめよう

手順5 歌の中の言葉を引用しながら作歌において想像したこと（情景や心情）をまとめよう

手順6 情景や心情を表現するためにどのような手法を使ったか、工夫点をまとめよう。
（語句のこだわり、修辞技法など・・・）

手順7 別紙に大きく自班の本歌取りの歌を書こう

手順8 歌合わせ勝負（発表や評価）の方法を確認しよう

☆『毎月抄』において定家の述べる、本歌取りの手法を復習しよう

（1） 本歌の最も重要な二句程度を、上の句と下の句に分けて置く。

（2） 季節や主題を変え、本歌と風情が同じにならないようにする。

（3） 重要な語句をおやみに取るのは良くないが、弱く取るのも意味がない。その歌を本歌取りしていると分かるようにする。

☆評価基準（ルーブリック）

☆発表の方法　※『古今和歌集』【A】の歌から、左方→右方の順に発表します

〈発表班＝方人（かたうど）〉

① 左方が本歌取りの歌を発表

③ 自班の解釈や鑑賞、工夫点をアピール

④ ルーブリックで自班を評価

⑤ 右方も①～④を同様に行う

⑥ 各班のアピールやルーブリック評価も踏まえて判定し、判詞（判定の理由）をまとめる

〈他班＝判者（はんじゃ）〉

② 発表された歌を解釈&鑑賞
→ 数班が発表

④ ルーブリックで発表班を評価

⑤ 右方も①～④を同様に行う

⑥ 各班のアピールやルーブリック評価も踏まえて判定し、判詞（判定の理由）をまとめる

古典Ａ　毎月抄　「定家に挑戦」　［　　］班ワークシート

活動⑤　歌合わせ勝負（発表と相互評価）

☆発表の方法　※『古今和歌集』【Ａ】の歌から、左方→右方の順に発表します

〈発表班＝方人（かたうど）〉
① 左方が本歌取りの歌を発表
③ 自班の解釈や鑑賞、工夫点をアピール（1分）
④ ルーブリックで自班を評価（1分）
⑤ 右方も①～④を同様に行う
⑥ 各班のアピールやルーブリック評価も踏まえて判定し、判詞（判定の理由）をまとめる

〈他班＝判者（はんじゃ）〉
② 発表された歌を解釈＆鑑賞（2分）
↓ 数班が発表
④ ルーブリックで発表班を評価（1分）
⑤ 右方も①～④を同様に行う
⑥ 各班のアピールやルーブリック評価も踏まえて判定し、判詞（判定の理由）をまとめる
⑦ 最後に各自のＷＳとこのＷＳを提出する

☆役割分担をしよう

〈発表班＝方人（かたうど）〉
・進行役：「それでは〇班の発表を始めます」、右記①～④を司会進行、「以上で終わります」
・掲示＆計時：右記①で歌を書いた紙を磁石で黒板に貼り、②～④でタイマーをセットする
・発言者：歌の詠みあげ（2回繰り返す）と、解釈や鑑賞、主題の変更、工夫点などアピール
・書記：自班の記入箇所のワークシートを記入

〈他班＝判者（はんじゃ）〉
・書記：ワークシートの記入
※記入する内容やルーブリック評価は、必ず班で相談する
※次時の振り返りの時間に、ワークシートをまとめたものを全員に配布するので、班で考えた内容の痕跡が分かるように、はっきり濃く書くこと
・意見発表者：班でまとめた、発表班の歌への解釈や鑑賞、工夫を感じた箇所などの意見発表
※意見発表する班は、1つ後ろと2つ後ろの班（例）1班→2班と3班

☆このワークシートに記入する内容
一．各班の歌について、①解釈、②歌の中の言葉を引用しながら想像したこと（情景や心情）や工夫が感じられる箇所などを、それぞれ書きましょう。
二．発表班のアピールも踏まえ、ルーブリック評価を書きましょう。
三．左方と右方どちらが優れた歌か判定し、判詞（判定の理由）をまとめましょう。

☆ルーブリック評価の方法
〇『毎月抄』において定家の述べる、本歌取りの手法
（1）本歌の最も重要な二句程度を、上の句と下の句に分けて置く。
（2）季節や主題を変え、本歌と風情が同じにならないようにする。
（3）重要な語句をむやみに取るのは良くないが、弱く取るのも意味がない。その歌を本歌取りしていると分かるようにする。
〇評価基準（ルーブリック）

いざ！歌合わせ勝負！！

【Ａ】桜花　散りぬる風の　なごりには　水なき空に　波ぞ立ちける（古今　春　紀貫之）

〈【Ａ】左方へ〉（　　班より）
①
②
Ａ［　］Ｂ［　］Ｃ［　］

〈【Ａ】右方へ〉（　　班より）
Ａ［　］Ｂ［　］Ｃ［　］

【Ａ】の勝は（　左方　／　右方　）（　　班より）
判詞

【B】五月待つ　花橘の香をかげば　昔の人の　袖の香ぞする（古今　夏　よみ人知らず）

〈【B】左方〈〉（　　班より）

①

②

A［　］B［　］C［　］

〈【B】右方〈〉（　　班より）

A［　］B［　］C［　］

【B】の勝は（　左方　ー　右方　）（　　班より）

判詞

【C】秋来ぬと　目にはさやかに　見えねども　風の音にぞ　おどろかれぬる

（古今　秋　藤原敏行朝臣）

〈【C】の左方〈〉（　　班より）

①

②

A［　］B［　］C［　］

〈【C】の右方〈〉（　　班より）

A［　］B［　］C［　］

【C】の勝は（　左方　ー　右方　）（　　班より）

判詞

【D】雪降れば　木毎に花ぞ咲きにける　いづれを梅と分きて折らまし（古今　冬　紀友則）

〈【D】の左方〈〉（　　班より）

①

②

A［　］B［　］C［　］

〈【D】の右方〈〉（　　班より）

A［　］B［　］C［　］

【D】の勝は（　左方　ー　右方　）（　　班より）

判詞

【E】思ひつつ　寝れば夢の　見えつらむ　夢と知りせば　覚めざらまし

（古今　恋　小野小町）

〈【E】の左方〈〉（　　班より）

①

②

A［　］B［　］C［　］

〈【E】の右方〈〉（　　班より）

A［　］B［　］C［　］

【E】の勝は（　左方　ー　右方　）（　　班より）

判詞

観点＼レベル	5	3	1
A形式 （定家の手法）	定家の述べる手法の三点すべてに従った形式である。	定家の述べる手法の二点に従った形式である。	定家の述べる手法の一点に従った形式、もしくはまったく従えていない。
B内容 （本歌取りによるおもしろさ）	本歌取りにより、二首分の世界の広がりや、新たな詩情を付け加えられていることが感じ取れる。	不十分な点はあるが、世界の広がりや新たな詩情を付け加えようとしていることが感じ取れる。	世界の広がりや新たな詩情が伝わりづらい、または本歌をなぞっているだけである。
C工夫 （表現の工夫）	内容や情景・心情を効果的に表現しており、「なるほど」と思える工夫が感じ取れる。	不十分な点はあるが、内容や情景・心情を効果的に表現しようとする工夫が感じ取れる。	内容や情景・心情を効果的に表現しようとする工夫が伝わりづらい、または工夫がされていない。

※B、Cの観点については、発表班の説明を踏まえて評価して良いこととする。

古典A　毎月抄「定家に挑戦」　　（　）組（　）番（　　）

～和歌に親しむ～　つながりを深める　学習を工夫し、本歌取りを通して、自己表現の幅を広げる手法に触れ、和歌の魅力を感じ取る

活動⑥ 活動の振り返りとまとめ　活動を振り返り、学びの深まりを確認しよう。

☆ 次の設問に〈選択肢〉で答え、感想をまとめましょう。

〈選択肢〉

ア	イ	ウ	エ
よくできた そう思う	ある程度できた まあそう思う	あまりできなかった あまり思わない	全くできなかった まったく思わない

① この活動を通して、和歌に親しむおもしろさを体験できましたか。　①【　　】

② 本歌取りをはじめとした、和歌の修辞への理解を深めることができましたか。　②【　　】

③ 解釈（訳）のみにとどまらない、和歌を鑑賞する方法を学ぶことができましたか。　③【　　】

④ 様々な知識を活用しながら、活動に取り組むことができましたか。　④【　　】

⑤ 作歌の際に、詠みたい心情や情景を歌に込めることができましたか。　⑤【　　】

⑥ 本歌取りをすることで二首分の新しい世界の広がりを加えることができましたか。　⑥【　　】

⑦ 作歌の際には、効果的な表現方法を工夫することができましたか。　⑦【　　】

⑧ 発表の機会があることで、発表の態度を養ったり、効果的な発表方法を工夫したりすることができましたか。　⑧【　　】

⑨ 相互評価を行う際は、根拠を明確にして評価を行うことができましたか。　⑨【　　】

⑩ この授業により、今後、様々な和歌を読むときに読み方が変わる（変えよう）と思いましたか。　⑩【　　】

⑪ この活動は学びが広がったり、深まったりするものでしたか。　⑪【　　】

【感想】

生徒の感想（「**活動の振り返りとまとめ**」の記述より）

和歌への苦手意識を払拭

・和歌は苦手で今まで読もうとはしなかったが、今回の授業で、作者がどのような意図で作ったのかきちんと考えて読むようにしようと思った。

・今まで和歌は何が言いたいのか分からなくて詠むことを拒否していた部分があったが、今回本歌取りを実際に自分たちでしてみて、３１語という少ない語の中でいかに伝えたいことが伝えられるかを考えながら、文法など意識して作ることで和歌の仕組みが少し分かった。

協同的な活動について

・班員の意見を合わせて作った歌が、他のメンバーに認めてもらえて嬉しかった。

・自班の和歌の解釈を他班と共有できるおもしろさがあった。

・自班の考えた解釈と他班の解釈が違っていて、心情や情景を伝えるのは難しいと思った。

・他班の作品は自分たちでは思いつかないような工夫が見られた。

・班員が積極的に意見を出してくれたので、話し合いが活発にできた。しかし意見をできるだけ反映させようとしてなかなか和歌ができあがらなかったことが大変でおもしろかった。

和歌への理解を深める

・今までは書かれていることを文法の知識を使って読んでいたが、逆に文法を使って和歌を作ってみると、古文のおもしろさに気づいた。

・実際に和歌を作ってみることで、和歌という文化のもつ深みを感じることができ、和歌への理解が深まったと感じた。思いを込めたり、修辞技法を織り交ぜたりしながら作歌することは難しかったが、悩むのも楽しかった。

・自分が思っている以上に和歌を作ることは難しく、特に恋の歌を作るときは自分の気持ちを表現しているようで少し恥ずかしい感じもした。

・本歌取りとはどういうものか、実際に自分で作ることで本当の理解ができた。

・本歌取りは２首分の歌の広がりを伝えることのできる一方で、そのために本歌を想像し、さらに自分の伝えたい情景を加える難しさがよく分かった。

・人生で一番和歌に触れることができた機会だった。歌を作るために辞書や本を使うなど、頭を使った。大変だったが、自分が作る側になることで、もっと他の人の歌を理解できるようになったと思った。

・この活動で、和歌から作者の心情を読み取る力が少しはついたと思うので、これからの古典の勉強に活かしていきたい。

・今回はあくまでも本歌取りということで、自由すぎる歌にならないように本歌とのつながりを意識して、本歌取りという限られた中でも最大限に心情や情景が広がるように作歌できた。しかしまだ工夫したところなどの説明が下手だと感じたので、今後発表の場にな

ったとき気をつけたい。

・和歌は直接的に分かることだけではなく、中に深い意味が隠されているところがおもしろく、どのような意味かを考えるのがとても楽しかった。

・分かりやすいだけを追求しても、和歌の世界の奥行きは出せないということを知った。

・自班の歌は一目で情景が理解できるような分かりやすさを意識して書いた。しかし、自分が「この歌は良い」と思った歌は、一回で分からなくても解釈を聞くと納得できるものだった。

昔の人を身近に感じる

・歌を作るのはとても難しく、一瞬でできるものはないと思った。歌で勝負したり、遊んだりしていた昔の人はすごい。

・活動を通して本歌取りの難しさを実感し、昔の人は様々な技法を用いて工夫して自分の詩情を詰め込んだ和歌を即興に詠むこともあったと思うと、本当にすごいことだと思った。

・自分たちで実際に和歌を作ってみて、昔の人の教養の深さを改めて感じた。

・自分に知識がなく、あまり班に貢献できなかったところは反省すべきだと思った。しかし私みたいに知識がなく一から作ることが苦手な人のために本歌取りというのができたのかもと、昔の人に共感した。